

令和元年度

学校評価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼崎市立大庄北中学校

令和元年度 学校評価

[各校の重点取組について]

「授業規律を確立し、学力を定着させる授業」

「学校生活全般で人間力を高める指導」

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	2.5	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
1 北中スタンダードの作成やGLT学習(学び合い学習)の実践により、授業改善の視点を共有し、主体的・対話的な深い学びを実現することに努めた。 2 大学院教授の指導の下、GLT研究授業を年3回実施すると共に、先進校視察などを行い、研修に力を入れた。 3 全校生対象の授業改善アンケートを実施し、教職員自身が授業を振り返る機会となった。 4 授業開始3分前に「エーデルワイス」を流すことによって、スムーズな授業規律の確立と放課後学習の実施による学力向上にも取り組んだ。 5 特別支援教育を充実するため発達障害の生徒の対応について(ケース会議)を頻繁に行った。また、小中連携共同職員研修でも、応用行動分析による生徒支援について大学教授の講演を行った。 6 家庭科の授業や生活習慣病に関する授業を通じて、生活習慣の指導を行った。	1 全職員が、授業のめあての提示と振り返りを確実に行うよう、市教委の「授業改善の視点」を参考により改善できるよう努める。 2 今後も先進校の実践から学ぶと共に大学教授の指導を受け、北中の特色ある取組を継続していく。 3 あまっこステップアップ調査などの結果の分析から具体的な授業改善と家庭学習の取組を推進する。 4 特別支援学級担当教員や生徒支援担当・不登校担当教諭を中心にSSWや関係機関と連携し、きめ細やかな生徒支援に努める。 5 今後も健康福祉局等と連携し、食育や健康増進の取り組みを進める。 6 新体力テストの結果から生徒の体力向上に向けた体育科の取組を進める。	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
1 各アンケート調査や学校環境適応感尺度「アセス」を活用し、生徒一人ひとりの状況に応じた教育相談を行うことができた。 2 「特別な教科 道徳」実施に向け、校内委員会を中心に全教員で道徳の授業を実施した。 3 品格教育やSEL(社会性と情動の教育)を実施し、生徒の規範意識を育てるとともに望ましい人間関係づくりに努めた。 4 いじめ防止基本方針に基づき、未然防止・積極的認知につとめ、早期対応をすることができた。 5 進路指導通信の発行や本校での私立高校説明会、2・3年生生徒保護者向け進路説明会を実施し、適切な進路指導に努めた。	1 「アセス」を継続実施することで、生徒一人ひとりの学校適応感を測り、個々に対応する事に努めると共にいじめアンケートからもその要因の早期発見と早期解決に努める。 2 「特別な教科 道徳」の指導・評価について、次年度は大学教授の指導を受け、教員の学ぶ機会を増やす。また、次年度の市内発表に向け、充実した研修に努める。 3 品格教育やSELについて今後も北中の特色ある教育として継続できるよう、新転任者の研修の機会を持つ。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2	2
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
1 不登校対策として、生徒理解の講演やケース会議を実施した。また、尼崎総合医療センターとの連携によるシミュレーション研修や校内研修・先進校派遣により教育課題に対する資質向上に努めた。 2 生徒指導に関する若手教員のメンターを決め、気軽に相談とアドバイスができるように取り組んだ。 3 教職員の勤務時間の適正化を図るため週2日の「定時退勤日」を設けた。 4 外部人材による授業補助や図書ボランティア、特別支援学級ボランティアを活用した。 5 地域貢献の取組として、育友会と連携し、4日間通学路クリーン運動を実施した。また、ボランティア部が、多くの地域行事に参画した。	1 研修や先進校視察など資質向上に関しては、一定の成果があったが、教職員の勤務時間の適正化に係る取組について課題が残った。次年度に向け、授業時間数の平準化や校務分掌の見直しなどを進めていきたい。 2 部活動については、今後も活動方針に則った指導を行う。 3 今後も学校を助けていただけるよう、ボランティアをお願いすると共に中学校として地域貢献できる取組を進めたい。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.5	2.5
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
1 交通安全課と連携した自転車安全教室や保護司会と連携した薬物乱用防止教室、デートDV防止教室を実施することができた。また、STOP ITのいじめ脱傍観者授業も実施した。 2 避難訓練を通して防災意識を高めると共に昨年度に大阪北部地震や台風等の被害も経験したことから被災時の行動について深く考える事ができた。	生徒・教職員共に危機管理意識を高めるため、今後とも講演や訓練・体験学習を重視し、命を守る取組を大切にしていきたい。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.5	2.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
学校教育目標 「知識を磨き命を大切にし規則を守る北中生」 1. 授業・家庭学習に真摯に取り組む生徒(知識を磨く) 2. 人を愛し命を大切に作る生徒(命を大切に) 3. 正しい判断をし、行動できる生徒(規則を守る) として、学力向上・生徒指導・道徳教育・品格教育・SEL等に取り組んできた。	学校教育目標を具現化するための授業改善・学習習慣の定着・道徳教育の充実・キャリア教育の推進などの課題について、教職員が、入れ替わる中でも取組の継続と改善を意識して推進する。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.5	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
研究テーマ 1 北中スタンダードの定着 (個別探求～協同探求～個別探求) 2 SELを活用した人間関係づくり 3 不登校生減少の取り組み	1 大庄北中学校の特色ある取組について、継続と改善を課題としてより良い実践方法を考えていきたい。 2 ICT機器の活用、アクティブラーニングの活性化など生徒・教職員共に学び続ける姿勢を大切に研究・実践・研修を積み重ねていく。 3 個々の教員が教育実践に活用できる研修にするため、常に内容を見直していきたい。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

- ※ 評価Ⅲの基準
- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 4:よく取り組んでおり、成果が大きい | 3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる |
| 2:取り組んでいるが成果が十分でない | 1:取組が不十分である |

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GLT学習などの取組をはじめ、先進校からの学びなどを活かし、北中の特色ある学習を行っている。今後も継続して、学力向上にも期待した。学力が思うように上がっていない。 ・GLT学習が、生徒間に活かされているように思う。 ・GLT学習などの話し合いが子どもたちが、受け身の立場でなく、主体的に学びに取り組めるよう工夫されていると思う。生徒支援でも、さまざまなケースに対応できるよう、担当教員だけでなく、学校全体で取り組んでいるように思う。対象生徒が多くなる中、大変だと思うが、頑張ってもらいたい。 	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アセス」の利用、品格教育等は良いと思うし、今後も実施して欲しい。 ・生徒の規範意識の育成について教職員の努力を感じる。 ・教育相談などを通して、生徒たちとの距離を縮め、悩みを相談できる関係を築いて欲しい。生徒たちの変化に気付くことのできる関係作りを願いたい。 ・3年生の保護者だけでなく、2年生の保護者も参加した高校説明会など、保護者の進路への不安を軽減させる取組をしている。 	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策などの研修、視察は、積極的に取り組んでいるようですが、実際の減少にはいたってないようである。 ・学校側からの取組は感じられるが、更なる地域からの働きかけを引き出して欲しい。 ・地域の方を巻き込んでの取組や活動をしている。クリーン運動などで地域の清掃を行い交流を図っている。 ・教職員の勤務の適正化は難しい問題である。 	2
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も講演や訓練などの実施を続けて欲しい。 ・校内における取組は評価したい。 ・登下校時の周辺道路での横並びや道路を占拠し、歩行している点が気にかかる。 ・子どもたちをいろいろな場面に遭遇しても、しっかり判断できるよう講演会などを行い、個々の意識を高めるように指導していると思う。引き続き、その時どうするか、考える力をつける指導を願う。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、多く入れ替わる中でも、子どもたちをぶれることなく指導していく目標を意識して取り組んでいると思う。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、常に学び続ける姿勢を示し、生徒たちを指導していると思う。 ・各テーマへの取組について更なる継続を。 	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B